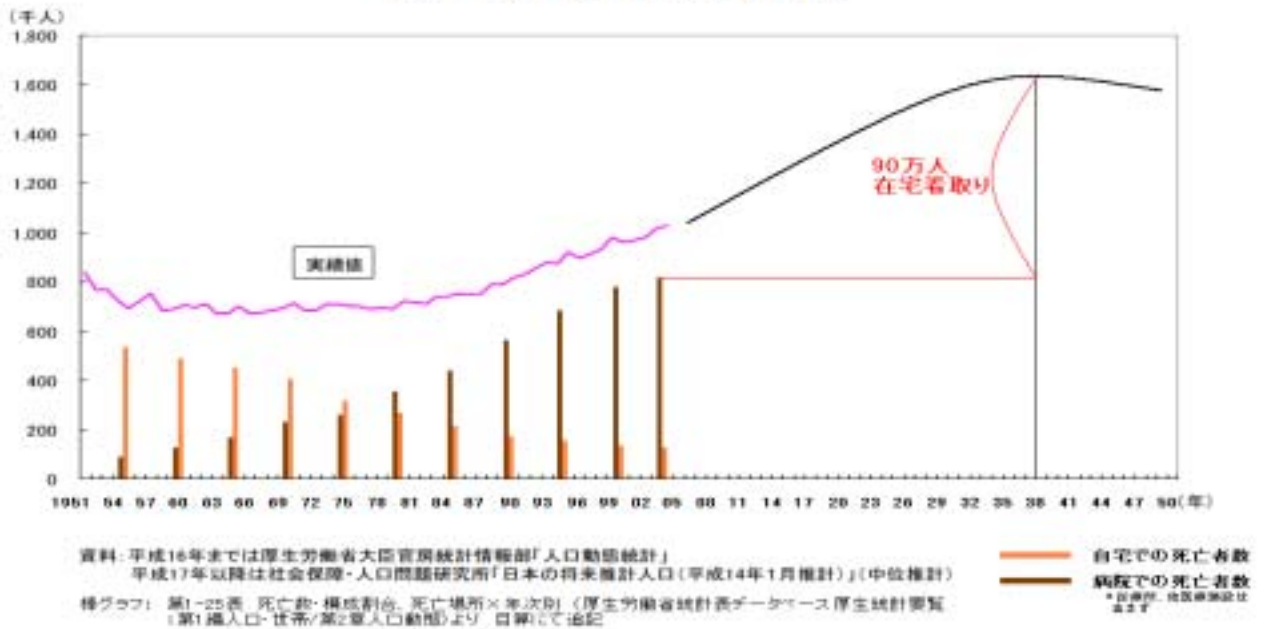


1 統計から

1 将来予測

1976年（昭和51年）に在宅死を病院死が上回ってから、急激に在宅死は低下しており、平成17年には12.2%（病院死は79.8%）という状況である。団塊の世代が90歳代に突入する2038年には死亡数が170万人（平成17年は108万人）のピークを迎えると推定されており、現在の病院看取り数（80万人）を基準にすると、差し引き90万人の在宅（病院外）看取りが必要になる。特に、死亡者の中で後期高齢者の割合が大幅に増加する（下図）ことも大きな課題であり、国は自宅以外の特別養護老人ホームや、経費老人ホーム（ケアハウス）、有料老人ホームなどでの看取りを進める必要性を示している。

死亡数の年次推移



後期高齢者における死亡数・死亡割合

現状 平成18年総死亡者数 = 1,084,450人
 後期高齢者の死亡数 = 698,976人
 (外国での死亡、不詳を除く) 後期高齢者の死亡割合 = 64.5%

2015年(平成27年) = 後期高齢者人口(推計値) 16,452,000人

後期高者の死亡数(推計値) 973,609人
 死亡総数(推計値) 1,270,000人
 = 76.7% 後期高齢者の死亡割合

2025年(平成37年) = 後期高齢者人口(推計値) 21,667,000人

後期高者の死亡数(推計値) 1,282,226人
 死亡総数(推計値) 1,481,000人
 = 86.6% 後期高齢者の死亡割合

注1) 平成18年総死亡者数・後期高齢者死亡者数は、厚生労働省統計表データベース「人口動態調査」に基づく
 注2) 2015年、2025年の75歳以上死亡者数は都道府県別将来推計(国立社会保障・人口問題研究所)による推計データに基づく
 仙台住録クリニック 研究部門